

	埼玉大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:210） 大学院理工学研究科（M:308 D:56）
沿革	昭和24（1949）年 埼玉大学創立（文理学部設置） 昭和40（1965）年 文理学部を改組、工学部を廃止し、理工学部を設置 昭和51（1976）年 理工学部を改組し、理学部を設置 昭和53（1978）年 大学院理学研究科設置 平成元（1989）年 大学院理工学研究科設置
設置目的等	<p>大正10年に、埼玉大学理学部・理工学研究科の母体の一つである旧制浦和高等学校が設置され、昭和24年の新制国立大学の発足時に、埼玉大学文理学部として承継された。</p> <p>昭和40年に、理系と工系を一体化し、物理、数学、化学、生物等の基礎科目を重視・融合し、総合的で広い視野に立った技術者の育成を目的に、理工学部が設置された。</p> <p>昭和51年に、教育研究分野の専門性の急速な拡大に対応することを目的に、理工学部を改組し、理学部が設置された。</p> <p>昭和53年に、基礎理学の教育と研究における質的向上をはかり、また、深い専門的な知識と研究能力をもった研究者を育成することを目的として大学院理学研究科が設置された。</p> <p>平成元年に、専門分野について深い学識と思考力をもち、絶えず自己研鑽を行う姿勢、基礎分野、関連分野への深い理解とこれを応用できる柔軟な能力、新しい社会、産業の動向に迅速に対応できる広範な知識と新しい学問の芽を育て得る豊かな創造性、国際的な視野で新しい科学技術の問題を判断できる見識を備えた研究者、技術者の育成を目的に、大学院理工学研究科が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>埼玉大学においては、専門性を軸に幅広い教養を備えた人材の育成に努めるとともに、地球規模での人類的課題や地域社会が抱える現実的課題に応える研究を積極的に推進することを理念として教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 学士課程・博士前期課程においては、理学に関する基礎から応用にわたる講義、演習、実習、実験の体系的教育と関連分野の教</p>

育を通じて高度専門職業人に求められる創造力、分析力及び論理的理解力を涵養し、基盤的学問の素養を持ち国際社会で活躍出来る理学系人材の育成の役割を充実する。また、博士後期課程においては、専門分野の深い知識と学際的及び俯瞰的視野を併せ持ち、学問の新領域又は新技術・新産業の創出に貢献できる高度な研究能力を備えた先導的な人材育成の役割を果たす。

- 高い学習意欲を有し基礎学力を備えた科学者の芽を育てるハイグレード理数教育プログラム、世界に展開する教育として、海外大学の研究室との交流を行う世界環流型実践教育プログラム、実践的研究を通したリサーチ・リテラシー教育などを積極的に推進してきた実績を生かすとともに、学士課程教育・博士前期課程教育を通じて、広い視野を持ち多様な分野で活躍できる理学系グローバル人材の育成を目指して不断の改善・充実を図る。
- 細胞生物学を中心とする基礎生命科学、トポロジー分野を中心とした数学や宇宙物理学を中心とする物理学の分野における質の高い研究実績を生かし、世界レベルを目指す研究を戦略的に推進し、理学の発展に寄与する。
- 学術講演会・セミナーの実施などの実績を生かし、今後とも埼玉県をはじめとする周辺地域における科学に対する興味関心の醸成と科学知識の普及に寄与する。
- 社会人入試制度、長期履修学生制度による大学院への社会人受け入れ促進等の取り組みを通じ、地域・社会の教育界、産業界の高度化・活性化に資する。
- 高等学校・中学校教員の資質向上のための研修協力、高校大学連携公開講座の開講やスーパーサイエンスハイスクール、サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業への協力・支援、最先端の科学に関する授業の提供等を通じて理科教育の発展に貢献する。